



Title	尾瀬国立公園の保護と利用 : 山岳ガイドの観点から
Author(s)	安類, 智仁; Anrui, Tomohito
Citation	低温科学, 80, 537-547
Issue Date	2022-03-31
DOI	https://doi.org/10.14943/lowtemsci.80.537
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84918
Type	departmental bulletin paper
File Information	41_p537-547_LT80.pdf



尾瀬国立公園の保護と利用 –山岳ガイドの観点から–

安類 智仁¹⁾

2021年10月7日受付, 2022年1月15日受理

尾瀬は日本の自然保護運動発祥の地であり、多くの課題を官民の協力で乗り越えてきた歴史がある。近年では尾瀬を活用した環境教育やツーリズムへの取り組みが始まるも、社会全般のレジャー多様化やインバウンド対応の遅れ、また震災や豪雨災害、コロナ禍といった利用面での大ブレーキとなる出来事が重なった。これらの出来事は尾瀬国立公園の利用者数だけでなく、山小屋を中心とした地域経済の低迷を引き起こし、このままでは主に地域が担ってきた歩道維持管理や救助活動等の「保護と利用」を低下させる事につながりかねず、これからの尾瀬の「保護と利用」の促進について、山岳ガイドの観点から取りまとめた。

A virtuous cycle of nature conservation and use of Oze National Park

Tomohito Anrui¹

Oze is the birthplace of nature conservation efforts in Japan, and there is the history that got over many problems by the cooperation of public and private sectors. In late years an earthquake disaster and a heavy rain disaster, the large brakes on the use side such as the COVID-19 and the event that it was were piled up diversification and a delay for inbound visitor again in leisure of the whole world though an environmental education and an approach to tourism that utilized Oze began. These events caused slump in business of the regional economy led by the mountain hut as well as the number of users of the Oze national park and in this situation, it might be connected in reducing “nature conservation and the use” such as the maintenance of trail down a mountain or the rescue operation that an area carried mainly and gathered it from the viewpoint of the mountains guide about promotion of “nature conservation and use” of Oze in the future.

キーワード：尾瀬国立公園, 保護と利用, 尾瀬認定ガイド

Oze national park, oze-certified guide, nature conservation and use

1. はじめに

尾瀬国立公園は日本列島のちょうど中央に位置し、福島県・栃木県・群馬県・新潟県の4県にまたがっている。日本最大の山岳湿地・尾瀬ヶ原と高山湖の尾瀬沼を、燧ヶ岳や至仏山といった2,000 m級の山々が取り囲み、その風景美は唱歌「夏の思い出」で表現されるように、「夢のような」「やさしさ」「水のほとり」「なつかしい」という比喩がびっぴりな場所である。

尾瀬は日本の自然保護運動発祥の地としても知られ、戦時下のダム開発、高度成長期の観光道路開発、近年の

責任著者

安類 智仁

連絡先

e-mail: anruit@gmail.com

1) 尾瀬ガイドやまもり,

1 Oze National Park ecotour guide service YAMAMORI,

Gunma, Japan

オーバーユース対策など、多くの課題を官民の協力で乗り越えてきた歴史がある（公益財団法人尾瀬保護財団，2019）。特にオーバーユース対策については、交通規制やゴミ持ち帰り運動、山小屋定員制、合併処理浄化槽やパイプライン整備、木道敷設、植生復元、至仏山東面道上り専用、尾瀬の一元管理を目的とした財団法人設立といった数々の保護対策を講じてきた（公益財団法人尾瀬保護財団，2019）。こうした1990年代における尾瀬のさまざまな取組は、日本の国立公園のオピニオンリーダーと言える存在であった。

しかし、尾瀬国立公園の誕生（2007年）、尾瀬認定ガイドの誕生（2008年）、尾瀬環境学習の充実（2008年）と保護対策だけでなく、尾瀬を活用した環境教育やツーリズムへの取組みが始まるも、社会全般のレジャー多様化やインバウンドへの対応の遅れ、また震災や災害、コロナ禍といった利活用面での大ブレーキとなる出来事が重なり、尾瀬国立公園の利用者数の低下が顕著となっている（環境省，2021a）。こういった利用面での低迷は、山小屋を中心とした地域経済と活力へのダメージに直結しており、これまで主に地域が担ってきた歩道維持管理や救助活動等の、「保護と利用」を低下させる事につながりかねない。

筆者は1996年から尾瀬保護財団職員として尾瀬沼ビジターセンターに勤務し、入山者に対する自然解説を中心とした啓発活動に従事し、2013年からガイド事業者として独立し、尾瀬専門のガイド会社である「尾瀬ガイドやまもり」の副代表として年間約10,000人の利用客を尾瀬に案内してきた。こうした尾瀬の自然と利用者との間で活動してきた経験をもとに、近年の尾瀬の利用に関する状況を取りまとめるとともに、これからの尾瀬の「保護と利用」を促進するために、私たちガイドに求め

られる役割を取りまとめた。

2. 近年の尾瀬の利用状況

尾瀬の利用状況を定量的に把握する指標は多くなく、主には環境省が各登山口に設置したカウントセンサーによる入山者数がある。この他の指標として、駐車場の駐車台数や、公衆トイレの利用者数やトイレチップ額があるが非公開となっている。

利用状況を把握する指標としては、一般的には宿泊率、リピート率、顧客満足度、観光消費額等があるが、前述のとおり尾瀬では入山者数以外のデータが公表されていないため、この数値の経年変化と同時に尾瀬で起きた事象との関連性をまとめた。

2.1 入山者数とその変動要因

図2は環境省が計測している尾瀬の入山者数を示したものである（環境省関東地方環境事務所，2021）。尾瀬の入山者数は平成8年の約65万人をピークに、以後は約30万人まで毎年微減傾向が続いた。しかし、2020年にはコロナ禍による他県への移動制限や、山小屋の営業休止等があり約10万人まで減少した。

入山者数を変動させた要因は何なのか。この問いに明確に答えられる調査や分析は行われていないが、当時の尾瀬を取り巻く事象と重ね合わせることでいくつかの推測は可能である（環境省関東地方環境事務所，2021）。

平成元年から8年まで、入山者数は増加トレンドにあったが、この背景には百名山ブームや夜行バス運行の充実等もあって多くの人が尾瀬を訪問していたと考えられる。その反面、し尿処理や踏み荒らしによる湿原や雪田植生の破壊といった、登山者の利用そのものが尾瀬の



図1：尾瀬認定ガイドのガイド風景。自然ガイドが行う解説（左）、登山ガイドが行う至仏山登山（右）。

(1) 入山者数

1 尾瀬国立公園の利用者数

- 平成8年の65万人をピークに30万人以下となった。近年の入山者数の微減が続いている。
- 尾瀬国立公園の入山者数は微減傾向が続いている。
- 国立公園全体は、平成23年以降増加傾向にある。

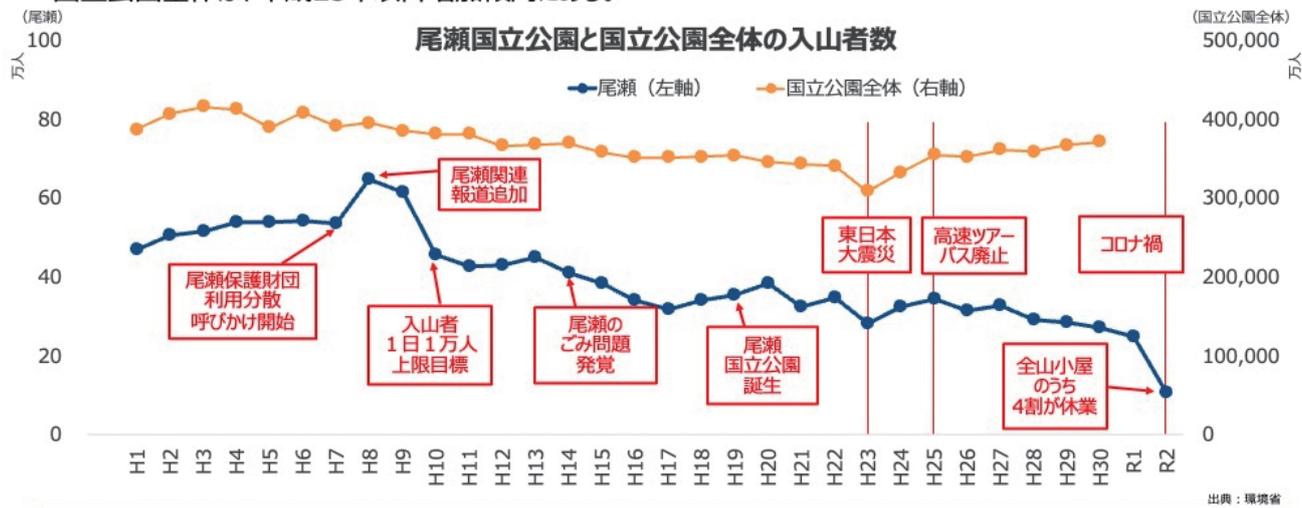


図2：入山者数とその変動要因（環境省関東地方環境事務所，2021a）。

自然に悪影響を与える点が問題視され、明治から昭和にかけての「ダム開発」や「観光道路開発」といった開発と保護という明瞭な対立構図とは異なる、新たな課題が生じていた。

この課題に対応するため、尾瀬関係者は「山小屋定員制」、「合併処理浄化槽やパイプライン整備」、「至仏山東面道上り専用化」といった保護対策を次々に打ち出し、その保護対策の一元的な取組を目的として平成7年に尾瀬保護財団が設立された（公益法人尾瀬保護財団，2021）。財団は翌8年からソフト事業を中心に「平日への利用分散」といった主旨の普及啓発活動を行うとともに、「入山者数1日1万人上限」という目標を設定して、「観光バスの乗入規制」等の保護対策強化を尾瀬関係者と推進した結果、平成10年以降の入山者数は減少トレンドへと転換した（環境省関東地方環境事務所，2021）。

その後の入山者数は約40万人台を微減し続け、平成19年の尾瀬国立公園誕生をきっかけに若干の入山者増が見られたものの、平成23年に起きた東日本大震災によって主に福島県側の入山者数が大幅減少した。

翌年には若干入山者数が回復するも、平成25年に軽井沢町や関越自動車道で起きた高速ツアーバス事故を受けて安全基準が見直され、長距離運転時の複数ドライバー配置や高速ツアーバスの廃止によって、都心から遠距離にある福島県側登山口への高速バス運行やツアーの廃止や、群馬県側登山口への目的地変更が相次ぎ、福島

県側の入山者数のさらなる減少が顕著となった（環境省関東地方環境事務所，2021）。

2.2 ビッグデータから見た利用者層

尾瀬入山者の増減とそれに影響を与えたと思われる事象について述べたが、そもそも尾瀬国立公園にはどんな客層が訪問しているのだろうか。これについては環境省がアンケート調査等を不定期ではあるが実施しており、大まかな傾向を読み取ることができる（環境省関東地方環境事務所，2016）。

一方、近年では尾瀬入山者が所持した携帯電話の位置情報を分析することで、ビッグデータを用いて利用者層の詳細を明らかにすることが可能となった。表1・2は携帯電話会社が保有する基地局情報から算出した2019年の尾瀬国立公園の利用者データである（環境省関東地方環境事務所，2021）。表1は利用者データを性別と10歳階とに分類して、尾瀬国立公園と日本に34箇所ある国立公園の合計とを比較したもののだが（関東地方環境事務所，2021）、尾瀬国立公園では60歳代が中心的な利用者であるのに対して、34国立公園では40歳代と年齢層が低く、尾瀬国立公園の10歳代～30歳代の比率が非常に低いことから、尾瀬国立公園では他国立公園と比較して中高年齢層の割合が高いと言える。

表2は尾瀬国立公園の利用者を居住地別・都道府県別・市町村別に集計したもののだが、74.5%が関東居住者であ

表1：ビッグデータを用いた34国立公園全体と尾瀬国立公園利用者層比較（環境省関東地方環境事務所（2021b））。

【参考】ビッグデータを用いた国内利用者数_34公園全体と尾瀬国立公園_2019年 1 尾瀬国立公園の利用者数

- 尾瀬国立公園の性・年代別利用者数の構成比は、34国立公園全体の性・年代別利用者数の構成比と比べて60代の占める割合が大きい。

年間国内利用者数（総数、性・年代別）

	34国立公園			尾瀬			(参考) 日光			(参考) 中部山岳		
	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体
総数	57,366,917	48,550,417	105,917,334	139,659	100,263	239,922	3,823,988	3,695,824	7,519,812	1,094,966	994,153	2,089,119
80歳代	1,678,871	2,182,178	3,861,049	3,895	2,964	6,859	147,906	197,861	345,767	42,579	48,952	91,531
70歳代	5,650,130	5,808,274	11,458,404	21,789	17,510	39,299	468,297	525,554	993,851	155,047	167,014	322,061
60歳代	8,718,932	7,548,830	16,267,762	34,752	26,708	61,460	610,091	613,711	1,223,802	214,326	214,463	428,789
50歳代	9,080,789	6,983,162	16,063,951	24,247	17,271	41,518	563,179	498,191	1,061,370	193,305	168,047	361,352
40歳代	11,051,531	8,106,324	19,157,855	22,668	14,822	37,490	704,261	602,514	1,306,775	196,656	160,752	357,408
30歳代	8,989,483	7,281,079	16,270,562	14,324	9,442	23,766	582,408	554,106	1,136,514	129,272	107,478	236,750
20歳代	9,097,133	8,053,021	17,150,154	13,525	8,619	22,144	583,897	561,989	1,145,886	129,497	105,551	235,048
10歳代	3,100,048	2,587,549	5,687,597	4,459	2,927	7,386	163,949	141,898	305,847	34,284	21,896	56,180

*尾瀬、小笠原、南アルプス、白山は2019年4月～2020年3月のデータを使用

出典：令和2年度 国立公園満喫プロジェクト推進業務（環境省）より作成

表2：ビッグデータを用いた尾瀬国立公園利用者層（居住地別）（環境省関東地方環境事務所（2021b））。

(7) ビッグデータを用いた国内利用者数③_2019年度

1 尾瀬国立公園の利用者数

- 関東居住者の利用者数が最も多い。
- 都道府県別には、上位5つは、東京都、埼玉県、群馬県、神奈川県、千葉県、市町村別には、上位5つは、前橋市、高崎市、宇都宮市、会津若松市、郡山市である。

居住地別国内利用者数_尾瀬国立公園

	居住地域別【年間/四半期】					都道府県別(上位15位)【年間】			市町村別(上位15位)【年間】			
	2019年	2019年	2019年	2020年	計	都道府県	利用者数(人)	構成比(%)	市町村	利用者数(人)	構成比(%)	
利用者数(人)	北海道	148	199	0	29	376	東京都	44,909	18.6	群馬県 前橋市	5,082	2.1
	東北	6,137	12,782	4,001	1,496	24,416	埼玉県	35,766	14.8	群馬県 高崎市	4,655	1.9
	関東	54,032	75,561	23,479	25,387	178,459	群馬県	25,289	10.5	栃木県 宇都宮市	4,410	1.8
	中部	7,201	9,345	2,390	538	19,474	神奈川県	24,392	10.1	福島県 会津若松市	3,509	1.5
	関西	5,954	3,839	755	0	10,548	千葉県	20,046	8.3	福島県 郡山市	3,320	1.4
	中国・四国	1,513	1,308	0	0	2,821	福島県	18,909	7.9	東京都 世田谷区	3,118	1.3
	九州・沖縄	1,274	838	123	0	2,235	栃木県	15,382	6.4	東京都 練馬区	2,957	1.2
	北海道	0.2	0.2	0.0	0.1	0.2	茨城県	12,675	5.3	福島県 福島市	2,315	1.0
	東北	8.0	12.2	12.7	5.3	10.1	新潟県	6,340	2.6	群馬県 沼田市	2,256	0.9
	関東	70.1	72.4	74.7	90.6	74.1	大阪府	4,176	1.7	東京都 板橋区	2,214	0.9
中部	9.3	9.0	7.6	1.9	8.1	愛知県	3,760	1.6	東京都 足立区	2,179	0.9	
関西	7.7	3.7	2.4	0.0	4.4	静岡県	3,340	1.4	群馬県 伊勢崎市	2,145	0.9	
中国・四国	2.0	1.3	0.0	0.0	1.2	宮城県	3,124	1.3	東京都 大田区	2,109	0.9	
九州・沖縄	1.7	0.8	0.4	0.0	0.9	兵庫県	2,611	1.1	千葉県 船橋市	2,033	0.8	
						長野県	2,380	1.0	群馬県 太田市	1,982	0.8	

※不明を含むため、合計は100%にならない

出典：令和2年度 国立公園満喫プロジェクト推進業務（環境省）より

り、その内訳も割合の高い順に、東京都、埼玉県、群馬県、神奈川県、千葉県と上位5県が近隣の大都市圏から訪問している事が明らかである。

第6位以降では、福島県、栃木県、茨城県となり、主に福島県側の尾瀬利用者が占めているが、8位に大阪府、9位に愛知県となり、東北地方（10.1%）よりも中部・関西地方からの利用者割合（12.5%）が高い事も明らか

になった。この点に関しては確証はないが、旅行会社の尾瀬ツアーが中部・関西地方で募集・催行されている事が影響しているのではないかと考えられる。

2.3 リピート率

尾瀬国立公園の再訪率(リピート率)を過去のアンケート調査から明らかにしたものが図3である（環境省関東

地方環境事務所，2021)．平成15年以前のアンケートについては訪問回数の区切りが不統一であり「初めて」と「2回目以上」でまとめられているが，どのアンケート結果でも2回目以上の訪問者は70%前後で推移しており，訪問回数6回以上の利用者は20%台で推移している事から，尾瀬国立公園はくりかえし訪れる利用者の多い，根強いファンが多く存在している事が明らかになった。

2.4 認知度・来訪意向

尾瀬国立公園の社会一般における認知度や，行ってみたいと思える場所(来訪意向)なのかをまとめたものが表3である(環境省関東地方環境事務所，2021)．これまでの同様な調査が尾瀬登山口で行ったものに対して，図6は広く一般に対して調査したものであり，日本における尾瀬の知名度・来訪意向を示したものである。

本調査では，尾瀬の認知度は1998年には81.0%と非常に高かったが，2021年には70.8%と約10%認知度が下がっている．来訪意向も同様に，「ぜひ行きたい」の割合が1998年は37.4%，2021年は23.7%と14%弱下がっており，25年間で認知度・来訪意向ともに10%以上低下したことが明らかになり，認知の低下が来訪先として選択肢に挙がりづらい関係性にある事も示唆された。

2.5 ガイドツアー参加者数

尾瀬国立公園には地元観光協会，ガイド事業者などで

構成される尾瀬ガイド協会が平成19年に設立されており，尾瀬認定ガイドの認定を行っている(詳細は「3.尾瀬ガイド協会について」で後述)．尾瀬認定ガイドは尾瀬国立公園でのガイドツアーを引率して，安全管理や環境教育，エコツーリズムを実践しているが，このツアーに参加した人数をまとめたものが図4である(環境省関東地方環境事務所，2021)．

これによれば，2010(平成22)年のツアー参加者数が約12,000人に対して，2018(平成30)年には約26,000人と倍以上に増えており，尾瀬入山者の減少傾向が続く中で，唯一増加傾向を示すデータとなった。

ガイドツアー参加者の増加は，ガイドの解説を通じた尾瀬の魅力発信や，安全で快適な尾瀬利用，また自然保護運動の原点としての尾瀬を利用者に伝える機会となっており，今後の尾瀬利活用の促進を図る上で重要な指標になると考えられる。

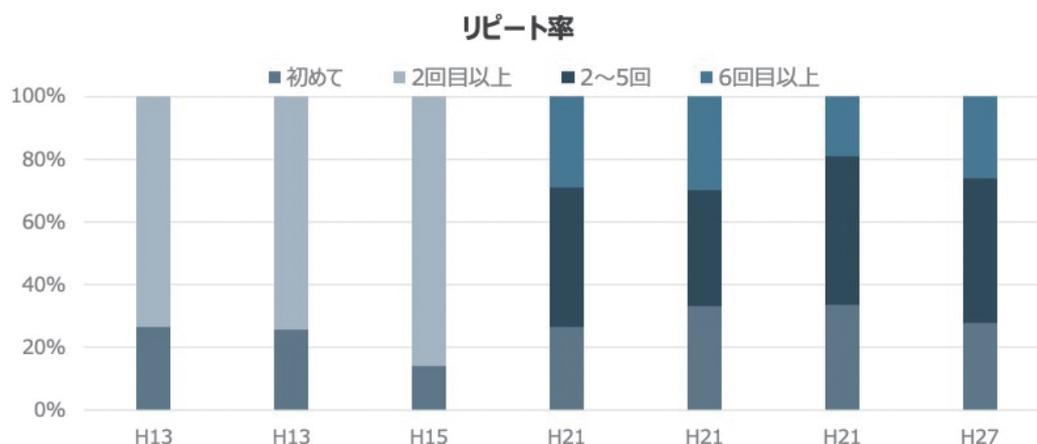
2.6 利用者ニーズ(やまもりツアーアンケート結果から)

尾瀬認定ガイドのツアーに対する参加者の評価はどういったものがあるだろうか．これについては全ガイド事業者が利用客アンケートを実施しているわけではないため，全体的な評価を行うことは出来ないが，筆者が所属する「尾瀬ガイドやまもり」では年2,000人以上の利用客からアンケートを回収しており，その結果からツアー評価の傾向をつかむ事が可能である．なお，今回はいく

(5) レポート率

1 尾瀬国立公園の利用者数

- 過去のアンケート調査から，尾瀬の訪問回数をまとめると，2回目以上の訪問者は70%前後で推移している。
- 訪問回数が6回以上の利用者は20%台で推移している。



※H15以前のアンケート設問では，訪問回数の区切りが不統一であり，「2回目以上」としてまとめた。

出典：環境省

図3：尾瀬国立公園のレポート率(環境省関東地方環境事務所，2021b)。

表3：尾瀬国立公園の認知度・来訪経験率・来訪意向の推移（環境省関東地方環境事務所（2021b））

(12) 認知度・来訪経験率・来訪意向の推移

- 尾瀬の認知度は、1998年は81.0%、2021年には70.8%と下がっている。
- 来訪経験率は、1998年、2003年、2008年と徐々に上がっていたが、2021年には18.8%とやや下がっている。
- 来訪意向については、「ぜひ行きたい」の割合が1998年は37.4%、2021年は23.7%と下がっている。

2 尾瀬国立公園の利用者層

	1998		2003		2008		2021	
	n	%	n	%	n	%	n	%
来訪経験率								
合計（無回答を除く）	1976	100.0%	2,075	100.0%	2,224	100.0%	1,433	100.0%
知らない	375	19.0%	474	22.8%	446	20.1%	418	29.2%
行ったことはないが知っている	1193	60.4%	1147	55.3%	1267	57.0%	746	52.1%
行ったことがある	408	20.6%	454	21.9%	511	23.0%	269	18.8%
認知度	1601	81.0%	1601	77.2%	1778	79.9%	1015	70.8%
来訪経験率	408	20.6%	454	21.9%	511	23.0%	269	18.8%

	1998		2003		2008		2021	
	n	%	n	%	n	%	n	%
来訪意向								
合計（無回答を除く）	1,375	100.0%	1,459	100.0%	1,779	100.0%	889	100.0%
ぜひ行きたい	514	37.4%	466	31.9%	468	26.3%	211	23.7%
行きたい	586	42.6%	687	47.1%	807	45.4%	417	46.9%
あまり行きたくない	232	16.9%	263	18.0%	409	23.0%	221	24.9%
行きたくない	43	3.1%	43	2.9%	95	5.3%	40	4.5%
行きたい（計）	1,100	80.0%	1,153	79.0%	1,275	71.7%	628	70.6%
行きたくない（計）	275	20.0%	306	21.0%	504	28.3%	261	29.4%

尾瀬国立公園誕生
出典：JTBF旅行意識調査

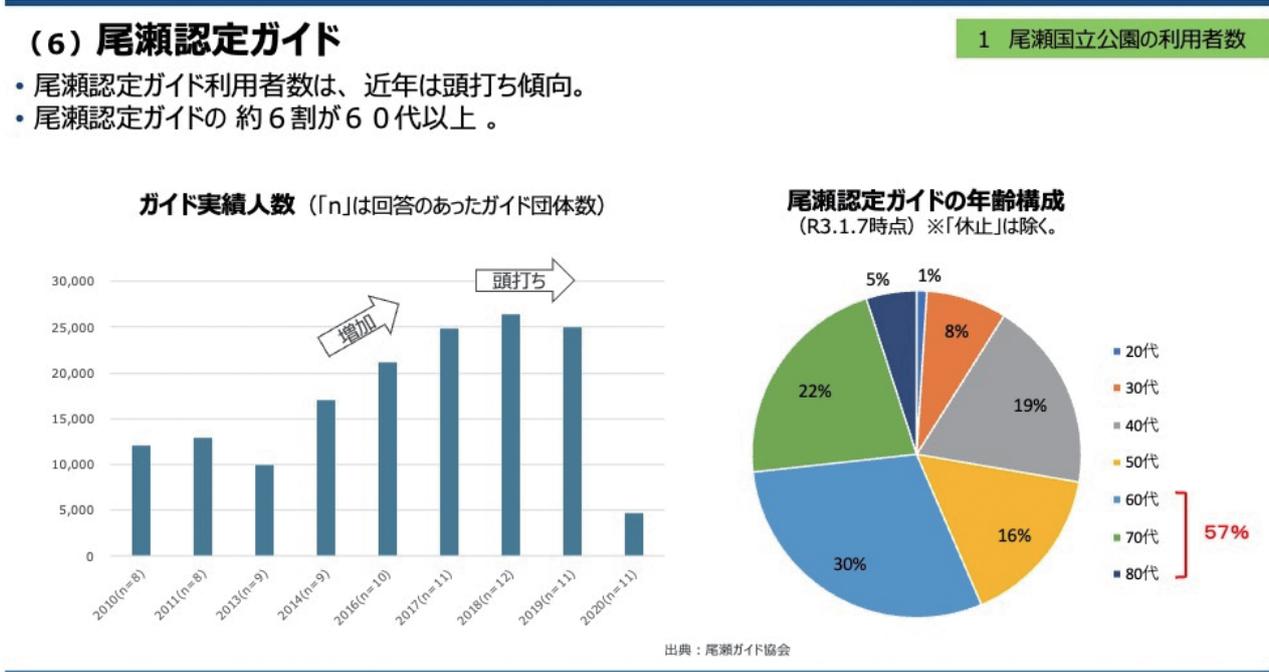


図4：尾瀬認定ガイドのガイド実績（環境省関東地方環境事務所，2021b）。

表4：やまもりツアーに対する自由意見（ポジティブ意見）（尾瀬ガイドやまもり，2019）。

ツアーに対する自由意見(ポジティブ意見)

	意見数	内 容
1位	251	解説・説明・案内・アドバイス(歩き方等)が丁寧・的確・わかりやすい・良い
2位	192	豊富な知識での解説
3位	158	歩くペースちょうどいい・体力に合わせてくれた
4位	120	気配り・気遣い・声かけ・心配り
5位	91	声大きい、よく通る、聞き取りやすい、口調が良い、話し方が良い
6位	82	丁寧・親切・やさしい対応
7位	55	天気に恵まれた
8位	43	安全への配慮・注意喚起
9位	35	人柄・親しみやすい
10位	29	時間の有効利用
11位	27	楽しかった
12位	25	達成感・満足感(目的地までの達成、歩ききったなど)
13位	24	明るく、さわやか、笑顔、元気
14位	22	質問への対応
15位	21	ケガ・体調不良・転倒・ハプニングへの対応
16位	17	人数が少なく・丁度良かった
17位	16	適度な休憩
18位	15	ガイドの対応が良かった
19位	14	景色・花が良かった
19位	14	イヤホンガイド

表5：やまもりツアーに対する自由意見（改善意見）（尾瀬ガイドやまもり，2019）。

ツアーに対する自由意見(ネガティブ(改善)意見)

意見数	項目	具体的な意見内容
153	解説技術	イヤホンガイド(拡声器・マイク・メガホン・スピーカー)希望 後ろまで聞こえる工夫を 説明は全員に聞こえる様に足を止めて 伝言が後ろまで伝わらない。まとまったところで説明を
85	解説内容	名称だけでなくより幅広くより詳しい説明を 違う季節の案内を ガイドの自然・人生経験を話す 転倒しない歩く時のコツを教えてください
53	資料	解説資料が欲しい。お土産や思い出になるもの 至仏山から見える山の資料。花の資料。 伝言は伝わらないので、解説資料が つぼみ、開花の時の写真が見たい
45	ツアーについて	他の季節や内容のツアー紹介 個人申込みの方法の紹介 尾瀬に向かうバス内で尾瀬の解説を お土産の野菜が重い
40	保護	尾瀬の自然を守って。伝えて。 自然の重要性を伝え、環境を守るために入山者へのマナー等教育 尾瀬の自然の現状を参加者に伝えて自然を守って行って トイレ利用料の未納者対策
27	整備等	木道整備 草木の名前がわかる大きな看板 昼食場所の確保 木道を幅広くするか手摺希望
23	休憩	鳩待峠への復路・石段では休憩が必要 昼食時間・休憩時間を増やして欲しい 途中の休みを多くして景色を眺める時間が欲しい 短時間でも良いので水分を取る時間が欲しい
22	情報発信	自然・ルート・持ち物・気候・レベルなどの事前情報が欲しい 尾瀬のマナーや魅力発信 季節の情報発信を 尾瀬の花の咲き状況をインターネットで提供希望
22	引率人数	人数が多い 今回のように人数を少なく 人数を10人から5から8人に 15人は無理がある
21	写真	写真時間 写真を撮りたいのでゆっくり歩いて欲しい 撮影ポイントを教えてください ビューポイントではガイドさんが写真を撮ってあげたら。

つかのアンケート設問の中から、特にツアーに対するポジティブな自由意見を表4、改善を希望する意見を表5としてまとめた（尾瀬ガイドやまもり，2019 内部資料）。

表4のポジティブな意見についてだが、1位「解説・案内・アドバイスが丁寧で的確、わかりやすい」、2位「豊富な知識による解説」、3位「歩くペースがちょうどいい」、4位「気配り・気遣い」となっており、主にガイドが行う解説活動や安全管理に対する評価が高く、次いで利用客に対する接客態度についても評価が高い事がうかがえた。

一方で表5にまとめた改善点としては、1位「解説が後ろまで聞こえる工夫」、2位「幅広いジャンルについての解説」、3位「話すだけでなく配布資料や写真で伝える」といった意見が多く寄せられた。ポジティブな意見としてガイドの解説活動に対する高評価がある一方で、改善に関してもより分かりやすく、色々な解説が聞きたいという要望が多くある事も伺える結果となった。

3. 尾瀬ガイド協会について

尾瀬でのガイド活動の始まりは定かではないが、平成15年頃には10事業者ほどが活動していたと考えられる。しかしその活動目的は事業者毎で自然保護の啓発や、安全な登山案内、専門的な知識の伝達と異なっており、さらにはガイドの実力がバラバラな状況があった。こうした現状を塩田政一氏（片品山岳ガイド協会事務局長（当

時）が尾瀬サミットにおいて「尾瀬にガイド認定制度が必要」と提言したのがきっかけとなり、平成15年には尾瀬ガイド事業者の情報交換を行う「尾瀬ガイドネットワーク」が発足した。平成17年にはネットワーク会員同士で遵守する「尾瀬ガイドルール」を作成した。平成19年には尾瀬国立公園の誕生や、群馬県・福島県・魚沼市が連携して子どもたちの尾瀬学習を事業化するといった大きな後押しを受け、平成20年に「尾瀬認定ガイド協議会（現在の尾瀬ガイド協会）」が発足した。

3.1 組織構成

尾瀬ガイド協会は、図5で示したとおりガイド事業者、地元観光協会、尾瀬保護財団で構成された理事会で運営されており、任意団体という形態をとりつつも、対外的には尾瀬国立公園における統一的な認定制度という位置づけを獲得している（日本エコツーリズム協会，2018）。

認定しているガイドの種類は、尾瀬自然ガイド・尾瀬登山ガイドの2種類で、それぞれに活動対象エリアや活動期間が定められている。この認定制度の特徴のひとつに「尾瀬ガイドのレベルアップをはかる」事があり、認定試験の合格ラインを比較的低くする代わりに、認定後の研修を充実させている点がある。もうひとつの特徴に「認定ガイドの年会費のみで運営される」組織である点があり、補助金・助成金を受けずに認定ガイド年会費（年10,000円）のみで運営されているため、協会独自の運営を持続的に行う事が可能となっている。

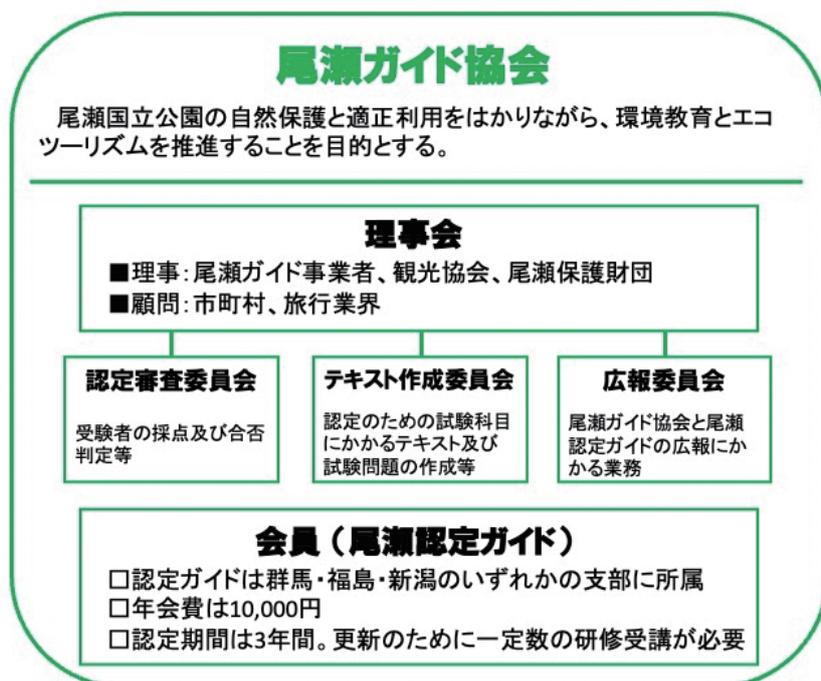


図5：尾瀬ガイド協会の組織構成（日本エコツーリズム協会，2018）

3.2 会員状況

活動14年目となった尾瀬ガイド協会は、現在の会員数が218人（2021年3月24日現在）と多くのガイドが所属しているが、平均年齢は59.7歳と高く、より利用客のニーズに合わせた、柔軟なガイド活動の展開・充実が求められている。

また、17のガイド事業者が所属団体となっているが、所在地別に見ると、群馬県側10、福島県側6、新潟県側1と、群馬県側のガイド事業者が多くいるのに対して、福島・新潟側でのガイド事業者が少なく、特に尾瀬国立公園の福島県側や新潟県側でのガイド活動の充実を図る必要があると思われる。

4. 「保護と利用」の促進のためにガイドに求められること

環境省（2021b）では平成28年度から「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、国立公園満喫プロジェクトを推進しており「保護と利用の好循環」を生み出すことで、優れた自然を守り地域活性化を図りながら、日本の国立公園を世界の旅行者が長期滞在したいと憧れる旅行目的地にしようと様々な取組みが行われている。

残念ながら尾瀬国立公園は先行的・集中的にこのプロジェクトに取り組む国立公園としては選ばれていないが、日本の自然保護運動の原点という普遍的な特徴を持ち合わせており、どのようにして保護と利用のバランスを取りつつ、それを促進させるのかを社会に答える立場にあると筆者は捉えている。

国家プロジェクトの行方はさておき、自分の職業である「ガイド」という存在が、尾瀬国立公園の「保護と利用」のために何が出来るのかをまとめてみた。

4.1 尾瀬の解説者としての役割

利用客がガイドに求めているニーズについては、「2.5 利用者ニーズ」でも触れたように、ポジティブ・ネガティブの両面において「尾瀬の解説」だった。ガイドに求められる役割は、利用客ニーズが多様化している現在では千差万別だが、そぎ落として考えれば「尾瀬の自然保護」、「安全管理」、「解説」であり、自然保護や安全については出来ていて当然であり、利用客からは見えない（見えづらい）役割だと思われる。

一方、解説する役割は、内容の分かりやすさ、豊富な知識、実体験、熱意、小道具の活用、ホスピタリティ、エンターテインメントといった様々な要素が関係しており、技術的なノウハウだけでなく、ガイドの考え方や生

きざまが利用客には見えてしまう。

このようにガイドの解説する能力は、尾瀬国立公園の普遍的価値を利用客に直接伝えられるだけでなく、尾瀬を好きになってくれるきっかけにも繋がるため、一朝一夕で能力向上が図れるわけではないが、今回の第四次尾瀬総合学術調査で明らかになった話題をかみ砕いて説明できる等、尾瀬ガイド協会を中心に尾瀬に関する知識と解説技術向上を図る必要がある。

話は多少それてしまうが、ガイドが解説しやすい環境を整える事も好循環を生み出し、促進させる方策であると捉える事も出来る。ガイドが利用客に伝えるべき尾瀬の普遍的価値を明らかにし、ツアー中にその価値を伝える役割をガイドに与えてはどうかと思う。

4.2 「楽しみ」と「学び」をバランス良く提供する役割

「4.1 尾瀬の解説者としての役割」と相反するが、尾瀬認定ガイドを依頼する利用客は尾瀬を楽しむために来ている。ガイドが解説者としての役割を前面に出しすぎると、ツアーが勉強会になってしまい、ガイドは先生という立場で尾瀬について教えるという構図ができあがってしまう。

尾瀬について勉強する事が悪いわけではなく、そういった場合はガイドだけでなく、尾瀬関係者が協力して別に設ける必要があり、あくまでもツアーにおいては尾瀬を「楽しむ」事を通じて、尾瀬を「学ぶ」という流れをつくる事が、ガイドに求められる役割ではないかと筆者は考えている。

「楽しみ」と「学び」をバランス良く提供するためにも、利用客の興味レベルや年齢・性別、旅行スタイル等を段階に分け、それぞれに対して「楽しみ」と「学び」をどのように提供するかを整理し、ガイド全員が利用客に応じて「楽しみ」と「学び」について多くの引き出しを持てるよう、技術向上の場を用意する必要がある。

4.3 悪しき変化の兆候を察知する役割

尾瀬では様々な主体が自然環境の把握のために、モニタリング調査を行っているが、その調査を継続するために行政や研究者が、多大な時間と労力をかけているのが現状である。

ガイドの特性のひとつに、同じフィールド（コース）を繰り返し利用するという側面があるが、この点においてガイドは継続的に環境変化を見守る最適な存在である事は間違いない。モニタリングに求められる専門性や精度については、それを必要としないようなモニタリング

項目と手法を実施主体が整備すればよく、例えば「定点を設けて写真を撮る」という作業は、新たな予算措置無しに実行できるモニタリングのひとつだと思う。

また、日常的に利用者を尾瀬に案内するなかで、現在の利用状況が尾瀬に対して何らかの悪影響を与えていないか、そういった悪しき変化の兆候をいち早く察知できるのも、利用客の行動を常に見ているガイドの特性だと思われる。例えば「なぜこの場所の植物が踏まれるのか」は、至仏山や燧ヶ岳等の登山コース上でしばしば起きている問題点だが、その理由のひとつには「階段の段差が大きくて仕方なく横の植生に踏み込んでいる」といった、利用客の行動が引き起こしているケースがあり、回復不能となる前に対策を講じるためにも、悪しき変化の兆候を察知する必要がある。また、利用者起因した変化だけでなく、野生動物による食害や、気候変動に起因した悪しき変化に対しても、「おかしい」と気づけるのがガイドであろう。

4.4 尾瀬ファンをつくる・増やす役割

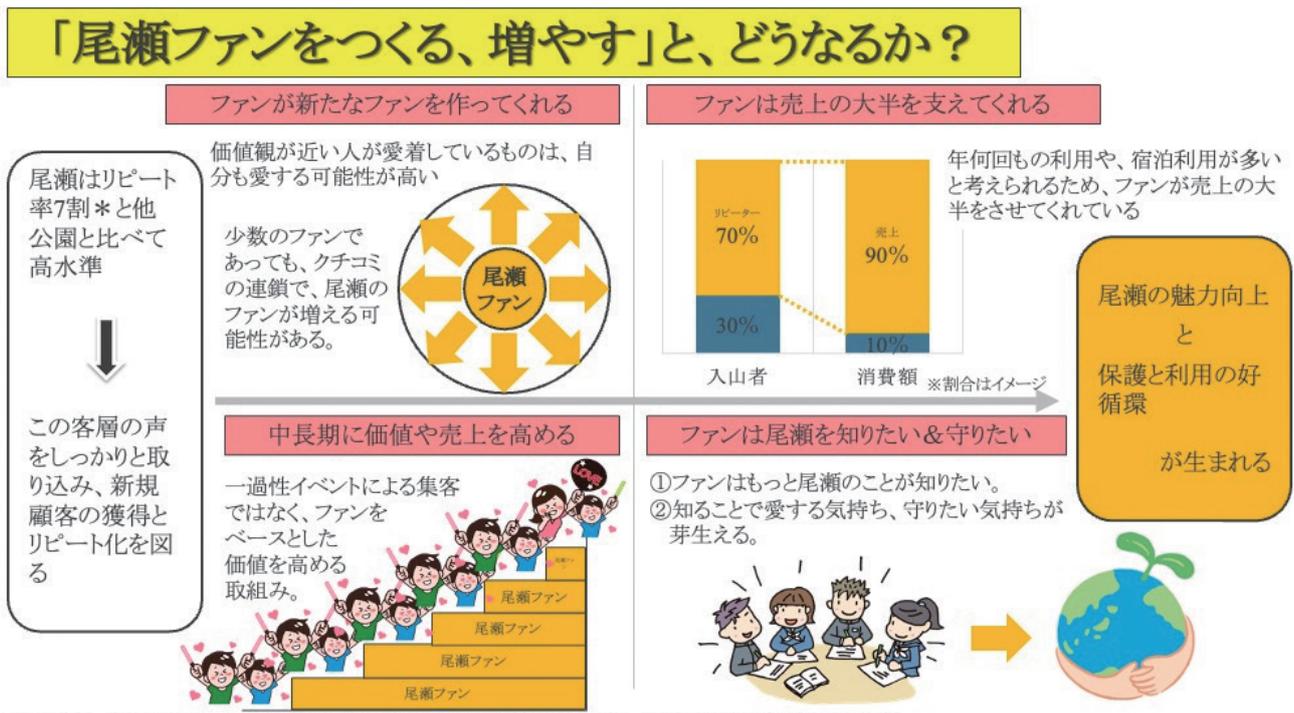
ガイドが尾瀬国立公園に果たすべき最も重要な役割が、「尾瀬ファンをつくる・増やす」だと筆者は考えている。図6は尾瀬ファンをつくり・増やす事でどんな影響をもたらすかをイラスト化したものだが、もともとリピート率の高い尾瀬国立公園ではあるものの、前述してきたとおり入山者の減少傾向や、認知度・来訪意向の低

下が顕著であり、これまでのような新規顧客の獲得を目的としてPRだけでなく、尾瀬を楽しむ・積極的に学び、ひいては尾瀬を守る活動に参加してくれる尾瀬ファンをつくり・増やす必要がある。

この事は「4. 保護と利用の促進のためにガイドに求められること」で述べたように、国立公園満喫プロジェクトに対して尾瀬国立公園が手本として見せる姿ではないかと感じている。「国立公園の利用者数増加」や「客単価の向上」といった指標は、その目標達成の途中にある数字に過ぎず、尾瀬を訪問した事で来園者にどうしてもらいたいかを提示してはどうかと思われる。

5. おわりに

ガイドは尾瀬利用客と最も長い時間を尾瀬で過ごし、解説やコミュニケーションを通じて、尾瀬の理解を促し、尾瀬ファンになってもらえるよう働きかける最前線の関係者である。尾瀬国立公園の保護と利用の促進に向けて、尾瀬ガイドも関係する皆さまと連携して役割を果たしたいと思う。



*尾瀬のリピート率については、環境省が行ったこれまでのアンケート調査(2015年、2009年、2003年、2001年)で約7割とされている。

図6:「尾瀬ファンをつくる、増やす」と、どうなるか？(環境省関東地方環境事務所(2021b)).

引用文献

公益財団法人尾瀬保護財団（2019）令和元年度尾瀬保護レポート,13

公益財団法人尾瀬保護財団（2021）尾瀬保護財団について.

(<https://www.oze-fnd.or.jp/oze/sr/> ; 2021 年 12 月 28 日確認)

環境省（2021a）令和2年度の尾瀬国立公園の入山者数について.

(http://kanto.env.go.jp/pre_2021/post_197.html ; 2021 年 12 月 28 日確認)

環境省（2021b）国立公園満喫プロジェクト. (<http://www.env.go.jp/nature/mankitsu-project/> ; 2021 年 12

月 28 日確認)

環境省関東地方環境事務所（2016）平成27年度尾瀬国立公園利用適正化推進業務報告書. 環境省関東地方環境事務所, さいたま.

環境省関東地方環境事務所（2021）尾瀬国立公園利用アクションプラン検討に向けた勉強会資料¹⁾. 環境省関東地方環境事務所, さいたま.

尾瀬ガイドやまもり（2019）尾瀬ガイドツアー参加者アンケート結果²⁾. 尾瀬ガイドやまもり, 群馬.

日本エコツーリズム協会（2018）尾瀬認定ガイドの取り組み. 152pp, ECO ツーリズム, **79・80** 合併号, 16

¹⁾ 問合せ先：環境省関東地方環境事務所 国立公園課

²⁾ 問合せ先：尾瀬ガイドやまもり